

◎ペメトレキセド「ニプロ」による

非小細胞肺がんの治療を受けられる
患者さんのご家族の方へ

(プラチナ製剤と免疫チェックポイント阻害薬
または血管新生阻害薬との併用)

監修:がん研有明病院 院長補佐 兼 呼吸器センター長

西尾 誠人先生



はじめに

ペメトレキセド「ニプロ」(以下、ペメトレキセド)とプラチナ製剤及び免疫チェックポイント阻害薬又は血管新生阻害薬ひしょうさいぼうはいの併用療法は、非小細胞肺がんの治療法の1つで、3種類の抗がん薬を組み合わせる方法です。

ペメトレキセドとプラチナ製剤と免疫チェックポイント阻害薬又は血管新生阻害薬の3剤併用療法(以下、ペメトレキセドを含む3剤併用療法)による非小細胞肺がんの治療を受けられる患者さんご家族の方が、治療について正しく理解し、できるだけ安心して治療に臨んでいただけるよう、この冊子では、使用のお薬の働き、治療スケジュール、主な副作用、治療前・治療中の注意点などを説明します。

巻末にある治療ダイアリーなどを活用して、ご自身の体調の変化や気になること、質問したいことなどをメモし、受診時に持参してください。

治療効果を得るためには、治療の継続が大切です。治療を開始してからも、少しでも気になる症状、不安や疑問に思うことなどがありましたら、自己判断で治療を中止せず、まずは医師、薬剤師、看護師などの医療スタッフにご相談ください。

医療スタッフはあなたの治療を支える仲間です。

がん研有明病院 院長補佐 兼 呼吸器センター長
西尾 誠人

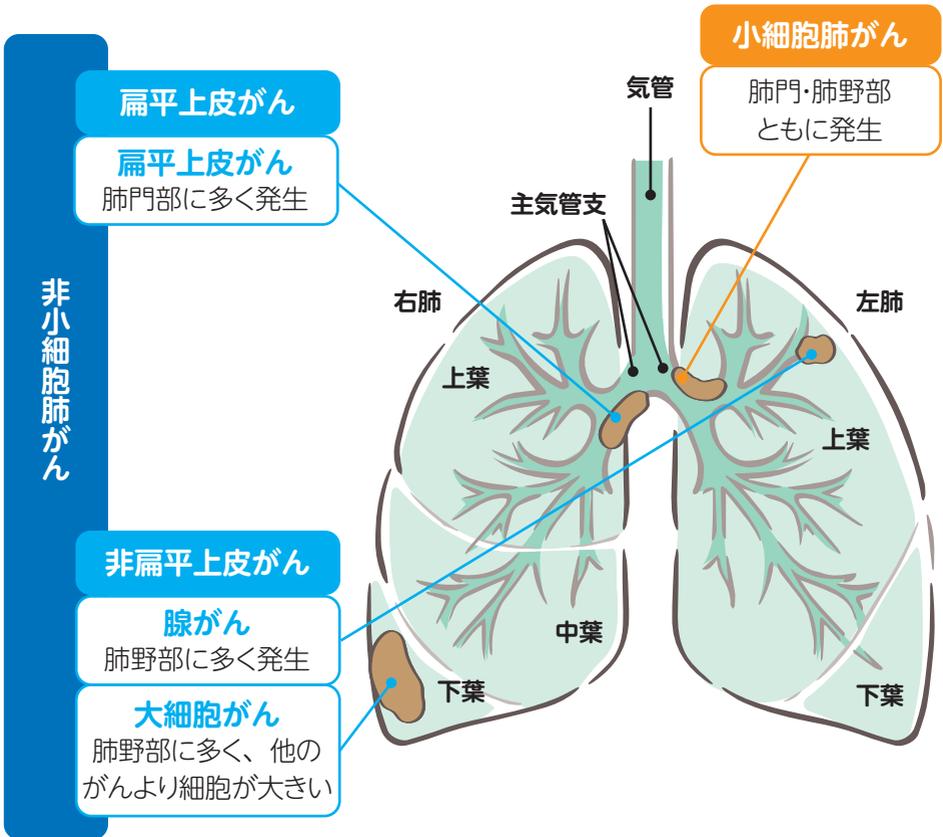
目次

● 非小細胞肺癌とは	3
● 肺癌の薬物療法	4
● ペムトレキセド+プラチナ製剤+免疫チェックポイント阻害薬併用療法、 ペムトレキセド+プラチナ製剤+血管新生阻害薬併用療法について	5
● 治療前に確認いただきたいこと	6
● ペムトレキセド+プラチナ製剤+免疫チェックポイント阻害薬の投与方法	8
● ペムトレキセド+プラチナ製剤+血管新生阻害薬の投与方法	9
● 葉酸・ビタミンB ₁₂ の投与方法	10
● ペムトレキセド+プラチナ製剤+免疫チェックポイント阻害薬併用療法 から維持療法の流れ	11
● ペムトレキセド+プラチナ製剤+血管新生阻害薬併用療法から維持療法 の流れ	13
● ペムトレキセドを含む3剤併用療法の副作用について	15
・免疫チェックポイント阻害薬(ペムブロリズマブ、アテゾリズマブなど)の代表 的な副作用	23
・血管新生阻害薬(ベバシズマブ)併用時の副作用	24
● 治療中に気をつけること	25
● 治療ダイアリー記入例	26
● 治療ダイアリー	27

非小細胞肺癌とは

● 非小細胞肺癌とは

肺癌は、組織型(種類)により非小細胞肺癌と小細胞肺癌の2つに大別されます。非小細胞肺癌は、さらに、扁平上皮がんと非扁平上皮がん(腺がん、大細胞がんなど)に分類されます。



肺がんの薬物療法

● 薬物療法とは

薬物療法とはお薬によってがん細胞の増殖を抑えたり、がん細胞の成長を遅らせたりする治療です。薬物療法は全身治療であり、より広い範囲に効果を発揮することが期待できます。薬物療法は手術や放射線治療と組み合わせて行うこともあります。

● 肺がんの治療薬

肺がんの薬物療法に使われるお薬は、「化学療法薬」、「免疫チェックポイント阻害薬」、「分子標的薬」に大きく分けられます。肺がんの薬物療法では、1種類のお薬を使う方法と、数種類のお薬を組み合わせる方法があります。

化学療法薬

化学療法に用いられるお薬で、「細胞傷害性抗がん薬」又は「殺細胞性抗がん薬」と呼ばれることもあります。細胞分裂を阻害することで、がん細胞の増殖を抑えます。主な細胞傷害性抗がん薬として、代謝拮抗薬、プラチナ製剤、微小管阻害薬などがあります。

免疫チェックポイント阻害薬

免疫は感染症や病気から体を守るための重要な生体防御機能ですが、免疫の力が強くなりすぎると、自分自身を傷つけてしまう「自己免疫反応」を生じることがあるため、体内には免疫を制御するブレーキ機能も備わっています(免疫チェックポイント機構)。がん細胞はこの仕組みを巧みに利用し、自分に対する免疫細胞(T細胞)の攻撃にブレーキをかけます。免疫チェックポイント阻害薬は、がん細胞からT細胞へ送られる異物攻撃中止の命令を解除するように働き、免疫細胞の働きを復活させます。

分子標的薬

分子標的薬は、がん細胞の増殖や転移にかかわる特定の機能を有する分子に作用して、がんの細胞増殖を抑えるお薬です。分子標的薬は、がん細胞の増殖因子やその受容体、細胞内で増殖の信号を伝える分子を標的として狙い撃ちし、抗腫瘍効果を発揮します。

ペムトレキセド+プラチナ製剤+ 免疫チェックポイント阻害薬併用療法、 ペムトレキセド+プラチナ製剤+血管新生阻害薬 併用療法について

ペムトレキセドを含む3剤併用療法は、ペムトレキセドとシスプラチン又はカルボプラチン、及び免疫チェックポイント阻害薬又は血管新生阻害薬という3種類の非小細胞肺癌の治療薬を組み合わせる治療法で、非小細胞肺癌のうち、非扁平上皮がんの治療に用いられます。

● ペムトレキセドについて

がん細胞は、遺伝子であるDNAがなければ増えることができません。ビタミンの一種として知られる葉酸は、細胞増殖におけるDNA合成に必要な不可欠な物質です。ペムトレキセドと葉酸の化学構造は似ているため、がん細胞は葉酸と間違えてペムトレキセドを取り込みます。その結果、DNA合成ができず、がん細胞は死滅します。

ペムトレキセドによる治療では、重篤な副作用の発現頻度を減らす目的で、必ず葉酸とビタミンB₁₂を併せて投与します。

● プラチナ製剤について

シスプラチンとカルボプラチンはプラチナ製剤に分類され、がん細胞のDNAと結合することで、がん細胞の分裂を阻害し、増殖を抑えます。

● 免疫チェックポイント阻害薬について

免疫チェックポイント阻害薬には、PD-1阻害薬、PD-L1阻害薬などがあります。主にPD-1阻害薬であるペムブロリズマブやPD-L1阻害薬であるアテゾリズマブというお薬を用います。

● 血管新生阻害薬について

血管新生阻害薬は分子標的薬のひとつです。主にベバシズマブというお薬を用います。



治療前に確認いただきたいこと

治療を開始する前に以下の項目について確認し、いずれかにあてはまる方は、必ず医師、薬剤師、看護師にお伝えください。

- 薬や食べ物にアレルギーがある、又はアレルギー症状(発疹、発赤、かゆみ、呼吸困難、めまい、血の気が引いて唇や指先が青紫色になる、など)を起こしたことがある。
- 市販薬(薬局やドラッグストアで買うお薬)も含めて、現在使用しているお薬(飲み薬、貼り薬、塗り薬、坐薬、目薬などどんなお薬でも)がある。
- 使用中の健康食品、サプリメントがある(総合ビタミン剤、ビタミンサプリメントなどのビタミン剤についても忘れずに伝えてください)。
- 他の医師又は歯科医師による治療を受けている、又は受けようとしている。
- 間質性肺炎、肺線維症にかかっている、又は以前にかかったことがある。
- 妊娠している、又は妊娠している可能性がある。／パートナーが妊娠する可能性がある。
- 授乳中である。
- 耳が聞こえない、聞こえにくい、耳鳴りがする。

免疫チェックポイント阻害薬を併用する場合は、p6に加えて以下の項目についても確認しましょう。

- 自己免疫疾患にかかっている、又は以前にかかったことがある。
- 臓器移植又は造血幹細胞移植をしたことがある。
- 結核にかかっている、又は以前かかったことがある。

血管新生阻害薬を併用する場合は、p6に加えて以下の項目についても確認しましょう。

- 喀血(口から血を吐く)を起こしたことがある。
- 胃潰瘍がある。
- 大きな手術を受けたばかりである。
- 脳に転移があるといわれている。
- 血が止まりにくい体質である。
- 血液を固まりにくくするお薬をのんでいる。
- 動脈又は静脈の中で血液が固まる病気(心筋梗塞、脳梗塞、深部静脈血栓症、肺塞栓症など)にかかったことがある。
- 糖尿病である。
- 高血圧である。
- 心臓の病気がある。

ペムトレキセド+プラチナ製剤 +免疫チェックポイント阻害薬の 投与方法

● **ペムトレキセド、プラチナ製剤、免疫チェックポイント阻害薬を点滴投与**
ペムブロリズマブ、アテゾリズマブなどの免疫チェックポイント阻害薬を静脈内へ点滴投与します。その後、ペムトレキセドを10分間かけて静脈内へ点滴投与した後、カルボプラチン又はシスプラチンを静脈内へ点滴投与します。主治医の判断で、制吐薬やステロイド薬を併用することや投与の順序が変わることがあります。また、シスプラチンは腎臓に負担のかかるお薬のため、シスプラチンを投与するときは、腎臓の負担軽減のために、前後に輸液を点滴投与します。

□ カルボプラチンを併用するときの投与スケジュール例



□ シスプラチンを併用するときの投与スケジュール例



上記投与スケジュールは参考例です。投与時間を含め、実際の投与スケジュールは患者さんの体調をみながら決められます。

● 3週間に1回の繰り返し投与

ペムトレキセドとプラチナ製剤(カルボプラチン又はシスプラチン)及び免疫チェックポイント阻害薬(ペムブロリズマブ又はアテゾリズマブ)は3週間に1回投与します。この3週間を1コースとして、通常合計4又は6コース繰り返します。ただし、ペムブロリズマブは主治医の判断で、6週間に1回とする場合もあります。

ペムトレキシド+プラチナ製剤+ 血管新生阻害薬の投与方法

● ペムトレキシド、プラチナ製剤、血管新生阻害薬を点滴投与

ペムトレキシドを10分間かけて静脈内へ点滴投与します。次にカルボプラチン又はシスプラチンを静脈内に点滴投与しますが、シスプラチンは腎臓に負担のかかるお薬のため、腎臓の負担を軽減するため、シスプラチン投与前後に輸液の点滴投与を行います。続いてベバシズマブを静脈内へ点滴投与します。最初の投与は90分かけて行いますが、2回目以降、投与時間が短縮される場合もあります。主治医の判断で、制吐薬やステロイド薬などを併用する場合や投与の順序が変わることがあります。

□ カルボプラチンを併用するときの投与スケジュール例



□ シスプラチンを併用するときの投与スケジュール例



上記投与スケジュールは参考例です。投与時間を含め、実際の投与スケジュールは患者さんの体調をみながら決められます。

● 3週間に1回の繰り返し投与

ペムトレキシド、プラチナ製剤(カルボプラチン又はシスプラチン)及び血管新生阻害薬(ベバシズマブ)は3週間に1回投与します。この3週間を1コースとして、通常合計4~6コース繰り返します。

葉酸・ビタミンB₁₂の投与方法

● ペムトレキシドの投与には葉酸とビタミンB₁₂が必要不可欠

ペムトレキシドによる治療では、白血球や血小板の減少、嘔吐や下痢などの副作用が生じることがあります。これらの副作用対策として、葉酸とビタミンB₁₂を必ず併用する必要があります。いずれもペムトレキシドの投与開始前から投与します。

● 葉酸は1日1回毎日内服

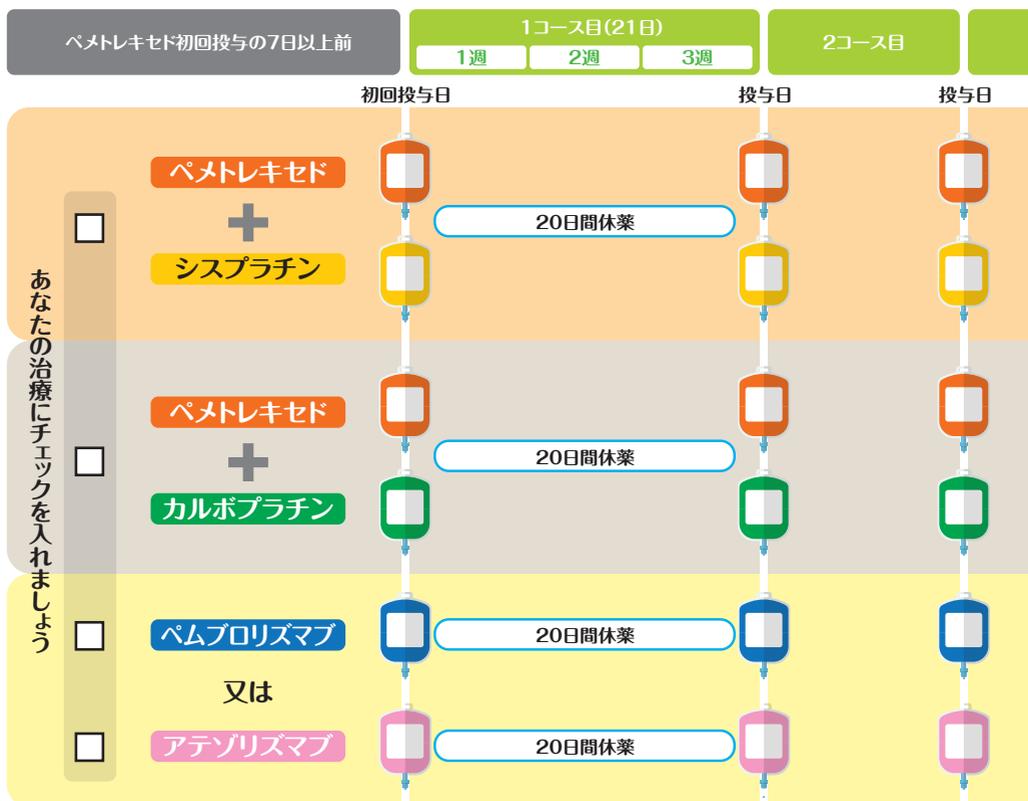
葉酸は、ペムトレキシドを最初に投与する(初回投与)日の7日以上前から、毎日1回内服します。ペムトレキシドの投与を中止又は終了する場合は、最後にペムトレキシドを投与した(最終投与)日から22日目まで葉酸の内服を続けます。

● ビタミンB₁₂は9週ごとに筋肉注射

ビタミンB₁₂は、ペムトレキシド初回投与日の少なくとも7日前に筋肉注射で投与します。その後、ペムトレキシドの投与期間中及び投与中止後22日目まで、9週ごと(3コースごと)に1回投与します。

ペムトレキセド+プラチナ製剤+免疫チェック

ペムトレキセド+カルボプラチン又はシスプラチン+ペムブロリズマブ又はアテゾリズマブの3剤併用療法を通常4又は6コース行った後に、病状の安定、腫瘍(がん)の縮小などの効果が認められた場合は、その効果を維持するためにペムトレキセド+ペムブロリズマブ又



化学療法+免疫チェックポイント阻害薬併用



葉酸

葉酸として1日1回0.5mgを毎日服用



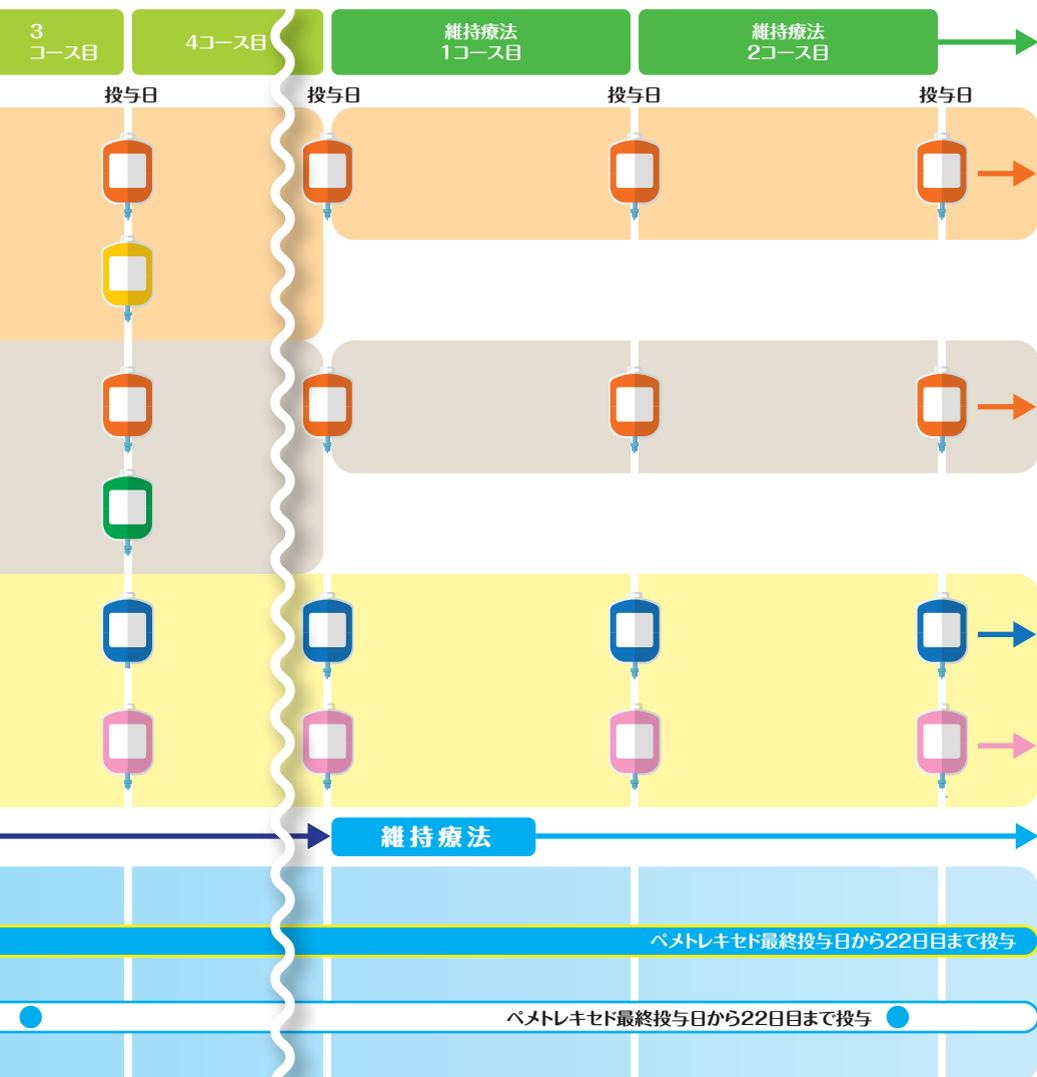
ビタミンB₁₂

ビタミンB₁₂として1回1mgを筋肉注射 9週ごと(3コースごと)

この投与スケジュールは参考例です。これに加えて、副作用を軽く

ポイント阻害薬併用療法から維持療法の流れ

はアテゾリズマブを継続して投与する「維持療法」を行うことがあります。治療効果と副作用、患者さんの体調などを含めて医師が総合的に判断し、維持療法を行うかどうかを決定します。維持療法の期間も通院による外来治療が可能です。



するために、制吐薬やステロイド薬などを併せて用いる場合もあります。主治医の指示に従い治療を受けましょう。

ペムトレキセド+プラチナ製剤+血管新

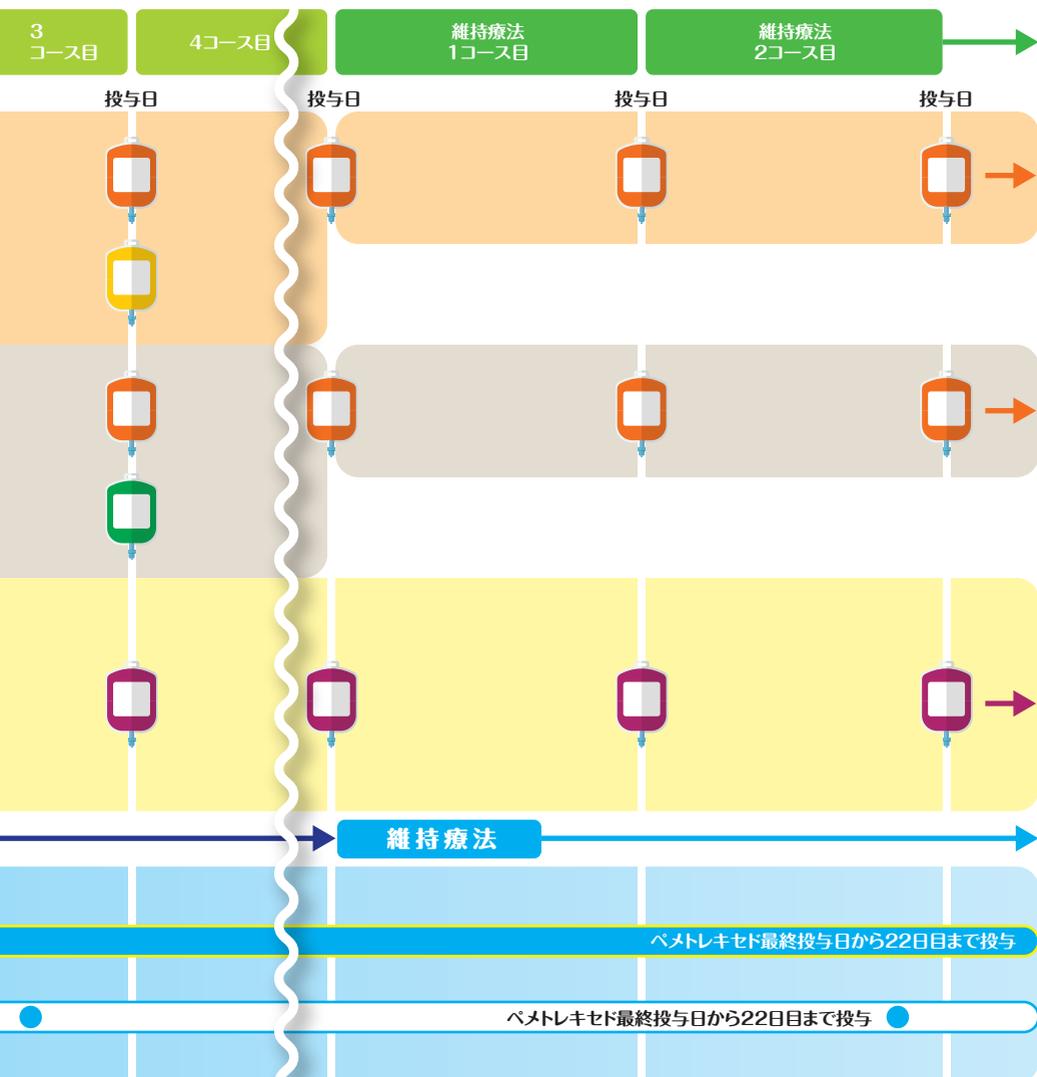
ペムトレキセド+カルボプラチン又はシスプラチン+ベバシズマブの3剤併用療法を通常4～6コース行った後に、病状の安定、腫瘍(がん)の縮小などの効果が認められた場合は、その効果を維持するためにペムトレキセド、ベバシズマブを継続して投与する「維持療法」を



この投与スケジュールは参考例です。これに加えて、副作用を軽く

生阻害薬併用療法から維持療法の流れ

行うことがあります。治療効果と副作用、患者さんの体調などを含めて医師が総合的に判断し、維持療法を行うかどうかを決定します。維持療法の期間も通院による外来治療が可能です。



するために、制吐薬やステロイド薬などを併せて用いる場合もあります。主治医の指示に従い治療を受けましょう。

ペムトレキセドを含む3剤併用療法の副作用について

ペムトレキセドやプラチナ製剤などの細胞傷害性抗がん薬は、がん細胞だけでなく正常な細胞にも作用するため、正常な細胞の働きが障害されて、好ましくない症状(副作用)があらわれることがあります。また、免疫チェックポイント阻害薬は、免疫が働きすぎることによる副作用が起きる可能性があります。血管新生阻害薬は、血管形成にかかわる因子を標的とするため、それに関連した副作用が起きる可能性があります。

副作用には個人差があり、あらわれる症状やその強さはさまざまです。副作用の種類や程度によって、患者さんの体調を考え、医師の判断によりがんの治療をいったん中止又は延期することがあります。副作用の早期診断と治療を行うことで、本来のがんの治療を中止せずにすむこともあります。少しでも異常を感じたり、気になる症状があるときは、がまんせず、早めに医師、薬剤師、看護師に伝えましょう。

● 主な副作用と対策

□ 発熱、感染症(白血球減少)

白血球が減少すると細菌やウイルス、真菌(カビ)などに対する抵抗力が弱くなり、感染症にかかりやすくなります。

重い感染症として敗血症(体の中で細菌などが繁殖し、さまざまな臓器の機能が障害された状態)や肺炎を起こすことがあります。これらの感染症は重症化すると命にかかわることもあるため、以下のような症状があらわれた場合はすぐに医師、薬剤師、看護師にご相談ください。

- 寒気、体のふるえ、全身の倦怠感
- 咳
- 発熱(特に37.5℃以上の高熱)
- のどの痛み
- 排尿時の痛み、肛門痛
- 下痢



日常生活での工夫点

- ・ 外出からの帰宅時、トイレの後、調理の前・食べる前などには、石けんと流水でしっかり手を洗いましょう。
- ・ なるべく人ごみを避けるよう心がけましょう。
- ・ うがいや歯みがきで口の中を清潔に保ちましょう。

□ 出血(血小板減少)

血小板には出血したときに血を固める働きがあります。そのため血小板が減少すると、内出血や出血が起きやすくなったり、血が止まりにくくなったりします。

工
夫
点
日
常
生
活
で
の

- ・ 転倒や打撲、ケガには十分注意しましょう。
- ・ 歯みがきは柔らかい歯ブラシを使い、強くこすらないようにしましょう。
- ・ ひげそりには電気カミソリを使い、切り傷をつくらないようにしましょう。

□ 貧血(赤血球減少)

赤血球の赤い色素であるヘモグロビンは、血液中で酸素とくっついて、体のすみずみに酸素を運ぶ役割を担っています。ヘモグロビンが減少すると酸素が十分にいきわたらなくなり、貧血を起こし、めまい、ふらつき、動悸、息切れ、頭痛などの症状があらわれます。

工
夫
点
日
常
生
活
で
の

- ・ 十分な睡眠・休息時間を取り、安静に過ごしましょう。
- ・ タンパク質や鉄分などを摂るようにし、バランスのよい食事を心がけましょう。



□ 下痢、脱水

下痢が続くと脱水を起こしやすくなります。下痢の症状が続く場合はすぐに医師、薬剤師、看護師にご相談ください。

工夫点 日常生活での

- ・食事は消化のよいものを、何回かに分けて摂るようにしましょう。
- ・脱水を防ぐため、お茶や水だけでなく、スポーツドリンクや経口補水液など、水分とナトリウム、カリウムなどの電解質を含む飲み物も飲みましょう。医師、看護師又は栄養士等に相談してみるとよいでしょう。
- ・冷たい食べ物・飲み物は避け、常温に近いものを摂るようにしましょう。

□ 吐き気、嘔吐、食欲不振

患者さんによって程度は異なりますが、お薬の投与直後から数日間にわたり吐き気や嘔吐の症状があらわれることがあります。吐き気はお薬によって軽減することができますので、つらいときはがまんせずに医師、薬剤師、看護師にご相談ください。

工夫点 日常生活での

- ・食べられるときに消化のよいものを少量ずつ食べるとよいでしょう。
- ・食事がとれない場合は、水分だけでも摂るようにしましょう。

□ 倦怠感・疲労感

お薬の投与後にだるさや疲れやすさを感じることがあります。無理をせず、十分に体を休めるようにしましょう。日常生活に支障が生じるほどつらいときは、がまんせず、医師、薬剤師、看護師にご相談ください。

日常生活での
工夫点

- ・無理をせず睡眠や休養をとりましょう。
- ・ご自身のリラックス方法を取り入れてみるのもよいでしょう。

□ 脱毛

髪の毛だけでなく、まゆ毛やまつ毛などの体毛が抜けることがあります。ほとんどの方は治療が終われば少しずつ回復しますが、個人差があります。

日常生活での
工夫点

- ・帽子やバンダナ、ウィッグなどを利用してみましょう。

□ むくみ(浮腫)

長い期間投与したときに、目の周りやまぶたが腫れたり、手足がむくむことがあります。症状を改善するために利尿薬を使うことがあります。症状がひどい場合は、医師、薬剤師、看護師に相談しましょう。

□ 口内炎

口内炎がひどくなると食事がとれなくなることがあります。

日常生活での工夫点

- ・クチュクチュウがいで口腔内のうるおいと清潔を保ちましょう。
- ・毛の柔らかい歯ブラシを使いましょう。



□ 発疹

お薬の投与後、発疹があらわれることがあります。症状をやわらげたり、悪化を防ぐため、ステロイド(副腎皮質ホルモン)の塗り薬などを使うことがあります。ステロイド薬は、適切な時期に、正しい量を正しく使えば、他の多くのお薬と同様に適切な効果が得られるお薬です。医師、薬剤師の指示通りに使しましょう。

□ 間質性肺炎

空気中の酸素を血液中に取り込む肺胞の壁やその周辺の「間質」に炎症が起きることで、肺胞と毛細血管の間の壁が厚く硬くなり、酸素が取り込まれにくくなる病気です。間質性肺炎が起きることはまれですが、重症化すると命にかかわることもあるので注意が必要です。息切れ、痰を伴わない咳、発熱があらわれた場合は、すぐに医師、薬剤師、看護師にご相談ください。

□ 腎障害・腎不全

お薬の投与後、腎臓の働きが悪くなることがあります。ほとんど尿が出ないときやむくみが生じた場合は、すぐに医師、薬剤師、看護師にご相談ください。

□ 末梢神経障害

化学療法の影響で末梢神経が障害されて起きる感覚・運動・自律神経障害です。手足のしびれ感や痛みで始まることが多いとされます。以下のような感覚の違和感や異常に気付いたときは、放置せず、できるだけ早く症状が軽いうちに医師、薬剤師、看護師に相談しましょう。

- ・ジンジン、ピリピリ、チクチクなどの異常感覚
- ・何かに触れただけで、電気が走るような痛みを感じる、知覚過敏になる
- ・何かにさわっても感覚がない、感覚が鈍くなり、痛みや温度を感じない
- ・つまずきやすい、物をつかみにくい、持つことができずすぐに落としてしまう

□ 聴力低下・難聴、耳鳴り

お薬の投与開始直後から発現し、初期症状は耳鳴り、高音域や電子アラーム音が聞き取りにくいといった症状で始まることが多いとされます。以下のような症状がみられた場合にはすぐに医師、薬剤師、看護師に伝えましょう。

- ・ 耳が聞こえづらい
- ・ ピー、キーンといった耳鳴り
- ・ 耳が詰まった感じがする

□ しゃっくり(吃逆)

しゃっくりが長く続くことで、食事がとりにくい、ゆっくり眠れないなど、生活に影響がみられる場合には、医師、薬剤師、看護師に相談しましょう。しゃっくりを止めるためのお薬が処方されることもあります。

● ペメトレキセドの副作用のうち、重い症状を引き起こす可能性のある下記の副作用があらわれることがあります。

- 骨髄抑制
- 感染症
- 間質性肺炎
- ショック、アナフィラキシー
- 重度の下痢
- 脱水
- 腎不全
- 中毒性表皮壊死融解症、皮膚粘膜眼症候群

★ この冊子で紹介した副作用以外にも、体調の変化や何らかの症状がみられたときは、早めに医師、薬剤師、看護師等にご相談ください。

● 免疫チェックポイント阻害薬（ペムブロリスマブ、アテゾリスマブなど）の代表的な副作用

免疫機能に働くお薬ですので、あらゆる臓器・器官で自己免疫疾患に類似した副作用を発現する可能性があります。

□ 皮膚障害

発疹、発赤、かゆみ、皮膚の乾燥、皮膚が白く変化するなどの症状があらわれることがあります。

□ 大腸炎・下痢

大腸の炎症やそれに伴う重度の下痢があらわれることがあります。**黒い便、血便が出た場合はすぐに医師、薬剤師、看護師にご連絡ください。**

□ 甲状腺機能障害

甲状腺に障害が起こり、甲状腺ホルモンが上昇又は低下することがあります。

低下した場合は、体重増加、むくみ、倦怠感があらわれることがあります。

上昇した場合は、体重減少、倦怠感、動悸や多汗があらわれることがあります。

● その他に内分泌障害（1型糖尿病など）、神経障害（重症筋無力症など）、肝障害、肺障害などさまざまな副作用があらわれる可能性があります。

★ この冊子で紹介した副作用以外にも、体調の変化や何らかの症状がみられたときは、早めに医師、薬剤師、看護師等にご相談ください。

● 血管新生阻害薬(ベバシズマブ)併用時の副作用

□ 高血圧

血圧が上がる可能性がありますので、治療中は血圧を測定することが大切です。血圧を下げるお薬で治療する場合があります。

□ たんぱく蛋白尿

尿中にたんぱくが出る場合があります。

□ 出血(鼻出血/歯肉出血 など)

粘膜から出血が見られることがあり、鼻血、歯ぐきから出血することがあります。また、傷が治りにくくなることもあります。

血痰や、血便・黒い便が出た場合は、気道や肺、消化管から出血しているおそれがあるのですぐに医師、薬剤師、看護師にご連絡ください。

★ この冊子で紹介した副作用以外にも、体調の変化や何らかの症状がみられたときは、早めに医師、薬剤師、看護師等にご相談ください。

治療中に気をつけること

- 医師、薬剤師、看護師からの指示を守り、なるべくリラックスして無理のない生活を送ることを心がけましょう。
- 体調のよいときは、軽い散歩などでリフレッシュするようにしましょう。
- 痛みやしんどさ、不安は決して一人でがまんせず、医師、薬剤師、看護師等に相談してください。さまざまな分野の専門の医療スタッフが、あなたを身体的・精神的に支援します。
- 感染予防(手洗い、うがいなど)に努めましょう。
- 他の医療機関や診療科を受診する際には、ペメトレキセド、プラチナ製剤(カルボプラチン又はシスプラチン)、葉酸、ビタミンB₁₂及び免疫チェックポイント阻害薬(ペムブロリズマブ、アテゾリズマブなど)又は血管新生阻害薬(ベバシズマブ)を使用中であることを忘れずに伝えてください。

治療ダイアリー記入例

葉酸及びビタミン B₁₂ の使い方について医師又は薬剤師から説明を受けた日、投与を開始した日を記入してください

	葉酸	ビタミン B ₁₂
説明を受けた日	2021年 9月 3日	2021年 9月 3日
初回投与日	2021年 9月 3日	2021年 9月 3日

日付	2021年 9月 14日	2021年 9月 15日	年 月 日
治療薬	葉酸	○	○
	ビタミンB ₁₂		
	ペメトレキセド	○	
	カルボプラチン(スプラチン) (どちらかに○をつけてください)	○	
	ペムプロシマブ (いずれかに○をつけてください) アテゾリズマブ ペバシズマブ	○	
体重	48 kg	48 kg	kg
体温	36.3 °C	36.0 °C	°C
血圧(最高/最低)(mmHg)	115 / 75	118 / 73	/
1日の食事量	いつもと同じ 少ない 食べられない	いつもと同じ 少ない 食べられない	いつもと同じ 少ない 食べられない
排尿回数・量	排尿回数:多い 少ない 排尿量 :多い 少ない 排尿痛 :あり なし	排尿回数:多い 少ない 排尿量 :多い 少ない 排尿痛 :あり なし	排尿回数:多い 同じ 少ない 排尿量 :多い 同じ 少ない 排尿痛 :あり なし
排便回数	[1]回	[2]回	[]回
吐き気・嘔吐	○	○	
体がだるい	○	○	
めまい・立ちくらみ			
息切れ、呼吸が苦しい			
あおあざ・内出血、出血しやすい			
咳	痰がからむ / 空咳	痰がからむ / 空咳	痰がからむ / 空咳
発疹・かゆみ			
口内炎			
脱毛			
手足のむくみ			
目のまわり、まぶたの腫れ			
聞こえづらい、耳鳴り			
手足のしびれ、ふるえ			
動悸、汗を多くかく			
その他の気になる症状	点滴中に気分が悪かった		
メモ			

葉酸及びビタミン B₁₂ の使い方について医師又は薬剤師から説明を受けた日、投与を開始した日を記入してください

	葉酸	ビタミン B ₁₂
説明を受けた日	年 月 日	年 月 日
初回投与日	年 月 日	年 月 日

日付		年 月 日	年 月 日	年 月 日
治療薬	葉酸			
	ビタミンB ₁₂			
	ペメトレキセド			
	カルボプラチン/シスプラチン (どちらかに○をつけてください)			
	ペムプロリズマブ アテゾリズマブ ペバシズマブ (いずれかに○をつけてください)			
体重		kg	kg	kg
体温		℃	℃	℃
血圧(最高/最低)(mmHg)		/	/	/
1日の食事量	いつもと同じ 少ない 食べられない	いつもと同じ 少ない 食べられない	いつもと同じ 少ない 食べられない	いつもと同じ 少ない 食べられない
排尿回数・量	排尿回数:多い 同じ 少ない 排尿量 :多い 同じ 少ない 排尿痛 :あり なし	排尿回数:多い 同じ 少ない 排尿量 :多い 同じ 少ない 排尿痛 :あり なし	排尿回数:多い 同じ 少ない 排尿量 :多い 同じ 少ない 排尿痛 :あり なし	排尿回数:多い 同じ 少ない 排尿量 :多い 同じ 少ない 排尿痛 :あり なし
排便回数	[]回	[]回	[]回	[]回
吐き気・嘔吐				
体がだるい				
めまい・立ちくらみ				
息切れ、呼吸が苦しい				
あおあざ・内出血、出血しやすい				
咳	痰がからむ / 空咳	痰がからむ / 空咳	痰がからむ / 空咳	痰がからむ / 空咳
発疹・かゆみ				
口内炎				
脱毛				
手足のむくみ				
目のまわり、まぶたの腫れ				
聞こえづら、耳鳴り				
手足のしびれ、ふるえ				
動悸、汗を多くかく				
その他の気になる症状				
メモ				

日付		年 月 日	年 月 日	年 月 日
治療薬	葉酸			
	ビタミンB12			
	ペメトレキセド			
	カルボプラチン/シスプラチン (どちらかに○をつけてください)			
	ベムプロリズマブ アテゾリズマブ ペバシズマブ	(いずれかに○をつけてください)		
体重		kg	kg	kg
体温		℃	℃	℃
血圧(最高/最低)(mmHg)	/	/	/	/
1日の食事量	いつもと同じ 少ない 食べられない	いつもと同じ 少ない 食べられない	いつもと同じ 少ない 食べられない	いつもと同じ 少ない 食べられない
排尿回数・量	排尿回数:多い 同じ 少ない 排尿量 :多い 同じ 少ない 排尿痛 :あり なし	排尿回数:多い 同じ 少ない 排尿量 :多い 同じ 少ない 排尿痛 :あり なし	排尿回数:多い 同じ 少ない 排尿量 :多い 同じ 少ない 排尿痛 :あり なし	排尿回数:多い 同じ 少ない 排尿量 :多い 同じ 少ない 排尿痛 :あり なし
排便回数	[]回	[]回	[]回	[]回
吐き気・嘔吐				
体がだるい				
めまい・立ちくらみ				
息切れ、呼吸が苦しい				
あおあざ・内出血、出血しやすい				
咳	痰がからむ / 空咳	痰がからむ / 空咳	痰がからむ / 空咳	痰がからむ / 空咳
発疹・かゆみ				
口内炎				
脱毛				
手足のむくみ				
目のまわり、まぶたの腫れ				
聞こえづらい、耳鳴り				
手足のしびれ、ふるえ				
動悸、汗を多くかく				
その他の気になる症状				
メモ				

治療ダイアリー

年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
kg	kg	kg	kg
℃	℃	℃	℃
/	/	/	/
いつもと同じ 少ない 食べられない	いつもと同じ 少ない 食べられない	いつもと同じ 少ない 食べられない	いつもと同じ 少ない 食べられない
排尿回数：多い 同じ 少ない 排尿量：多い 同じ 少ない 排尿痛：あり なし			
[]回	[]回	[]回	[]回
痰がからむ / 空咳	痰がからむ / 空咳	痰がからむ / 空咳	痰がからむ / 空咳

本治療ダイアリーを継続してご使用の場合は、コピーしてお使いください。

日付		年 月 日	年 月 日	年 月 日
治療薬	葉酸			
	ビタミンB12			
	ペメトレキセド			
	カルボプラチン/シスプラチン (どちらかに○をつけてください)			
	ベムプロリズマブ アテゾリズマブ ペバシズマブ	(いずれかに○をつけてください)		
体重		kg	kg	kg
体温		℃	℃	℃
血圧(最高/最低)(mmHg)	/	/	/	/
1日の食事量	いつもと同じ 少ない 食べられない	いつもと同じ 少ない 食べられない	いつもと同じ 少ない 食べられない	いつもと同じ 少ない 食べられない
排尿回数・量	排尿回数:多い 同じ 少ない 排尿量 :多い 同じ 少ない 排尿痛 :あり なし	排尿回数:多い 同じ 少ない 排尿量 :多い 同じ 少ない 排尿痛 :あり なし	排尿回数:多い 同じ 少ない 排尿量 :多い 同じ 少ない 排尿痛 :あり なし	排尿回数:多い 同じ 少ない 排尿量 :多い 同じ 少ない 排尿痛 :あり なし
排便回数	[]回	[]回	[]回	[]回
吐き気・嘔吐				
体がだるい				
めまい・立ちくらみ				
息切れ、呼吸が苦しい				
あおあざ・内出血、出血しやすい				
咳	痰がからむ / 空咳	痰がからむ / 空咳	痰がからむ / 空咳	痰がからむ / 空咳
発疹・かゆみ				
口内炎				
脱毛				
手足のむくみ				
目のまわり、まぶたの腫れ				
聞こえづらい、耳鳴り				
手足のしびれ、ふるえ				
動悸、汗を多くかく				
その他の気になる症状				
メモ				

治療ダイアリー

年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
kg	kg	kg	kg
℃	℃	℃	℃
/	/	/	/
いつもと同じ 少ない 食べられない	いつもと同じ 少ない 食べられない	いつもと同じ 少ない 食べられない	いつもと同じ 少ない 食べられない
排尿回数：多い 同じ 少ない 排尿量：多い 同じ 少ない 排尿痛：あり なし			
[]回	[]回	[]回	[]回
痰がからむ / 空咳	痰がからむ / 空咳	痰がからむ / 空咳	痰がからむ / 空咳

本治療ダイアリーを継続してご使用の場合は、コピーしてお使いください。

日付		年 月 日	年 月 日	年 月 日
治療薬	葉酸			
	ビタミンB12			
	ペメトレキセド			
	カルボプラチン/シスプラチン (どちらかに○をつけてください)			
	ベムプロリズマブ アテゾリズマブ ペバシズマブ	(いずれかに○をつけてください)		
体重		kg	kg	kg
体温		℃	℃	℃
血圧(最高/最低)(mmHg)	/	/	/	/
1日の食事量	いつもと同じ 少ない 食べられない	いつもと同じ 少ない 食べられない	いつもと同じ 少ない 食べられない	いつもと同じ 少ない 食べられない
排尿回数・量	排尿回数:多い 同じ 少ない 排尿量 :多い 同じ 少ない 排尿痛 :あり なし	排尿回数:多い 同じ 少ない 排尿量 :多い 同じ 少ない 排尿痛 :あり なし	排尿回数:多い 同じ 少ない 排尿量 :多い 同じ 少ない 排尿痛 :あり なし	排尿回数:多い 同じ 少ない 排尿量 :多い 同じ 少ない 排尿痛 :あり なし
排便回数	[]回	[]回	[]回	[]回
吐き気・嘔吐				
体がだるい				
めまい・立ちくらみ				
息切れ、呼吸が苦しい				
あおあざ・内出血、出血しやすい				
咳	痰がからむ / 空咳	痰がからむ / 空咳	痰がからむ / 空咳	痰がからむ / 空咳
発疹・かゆみ				
口内炎				
脱毛				
手足のむくみ				
目のまわり、まぶたの腫れ				
聞こえづらい、耳鳴り				
手足のしびれ、ふるえ				
動悸、汗を多くかく				
その他の気になる症状				
メモ				

かかりつけ施設情報

施設名：
担当医：
電話番号：

薬局名：
電話番号：